

# 医生丘だより

## 学力特集号

北九州市立医生丘小学校

平成29年11月16日

校長 田口 誠

い……いっしょうけんめい考える子ども

せい……せいいっぱいがんばる子ども

が……がまん強い子ども

お……おもいやりのある子ども

か……からだをきたえる子ども

### 平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

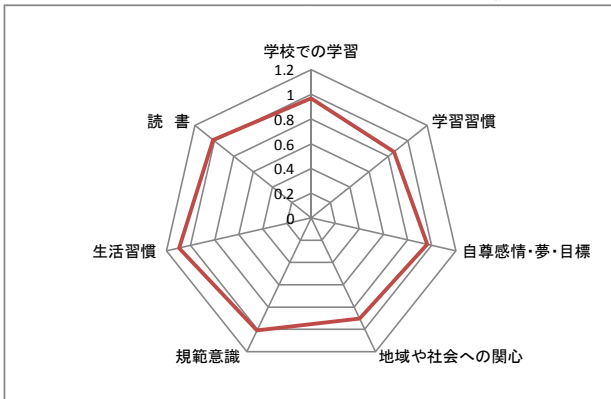
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

#### 1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	全体的に全国平均正答率を上回っており、言語の知識理解は基礎ができていた。読む力を問う問題に、やや課題がある。	上回っている。
国語B	全校区平均正答率をやや下回っていた。目的や意図に応じて話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話す力を高めていくことが課題である。	下回っている。
算数A	全校区平均正答率をやや下回っていたが、計算問題の正答率は高く、基礎的な計算力は身に付いている。割合や図形の問題において正答率が低かった。空間認識や割合の意味理解を深めていく必要がある。	下回っている。
算数B	全校区平均正答率をやや下回っていた。理由や説明等を記述する問題では正答率が低かった。特に、式の意味を説明したり題意に沿ったグラフを選んだりすることができておらず、今後、授業の中で積極的に取り入れていく必要がある。	下回っている。

#### 2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



##### 質問紙調査の結果分析

- 朝食や就寝時間等、生活習慣が定着しており、規範意識も高い。
- 話し合う活動を通して自分の考えを深めたり、広げたりすることができると思う児童の割合が大きい。また、めあてを意識し、学習内容を振り返る等もできていると回答した児童の割合も大きい。課題としては、授業時間以外に読書する時間が少ないことが挙げられる。
- 全国と同様に学校の宿題や手伝いをする児童は多いが、授業の予習や復習をしている児童の割合は少ない。また、普段、テレビ等を視聴したり、ゲームをしたりする時間が長いことも課題として挙げられる。

#### 3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

##### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

話し合い活動や振り返りの場を設定する。話し合い活動において自分の考えを相手に伝えるためには、自分の考えを事前にもっておく必要があり、そのための書く活動を位置付けるようにする。

また、学習を振り返る場面においても何を学んだか実感できるように、書く活動を位置付けていく。このような場を通して、話す力・書く力を高めていく。

##### ② 家庭生活習慣等に関する取組

家庭学習(宿題の他に自主学習)の充実を図っていく必要がある。そのために、自学ノートの指導を充実させる。取組を勧め、がんばったことや工夫したことを認め、学級学年や保護者にも広めていくようにする。